

滋賀の教育の基本目標

未来を拓く心豊かでたくましい人づくり ~学び合い、支え合う、「共に育つ」滋賀の教育~

教職員の姿勢

力を結集し、チームとして全力で子どもを育てる

- やる気と活力のある明るい教職員
- 学び続ける教職員
- 子どもと温かく向き合える教職員
- 地域や保護者に信頼される教職員

教師力を高める教職員研修

- 子ども理解と教科指導を連動させる研修を実施し教務部とのTTや学習支援員との連携で気軽に授業中の子どもの姿を研究する。
- OJTを活性化し、積極的に授業公開を行い、授業研究や授業実践を通じた研修を推進し、指導力を向上する。
- 学習指導要領について、自身の担当教科は、詳しく説明できるようにし、校内研究会などの機会ごとに各教科のポイントを確認する。
- 実技研修会や模擬授業を積極的に実施し、指導力を磨く。
(書写や体育実技、音楽指導、図工指導、理科実験指導、家庭科指導、ICT機器の扱い方法や積極的な活用等)

授業力があるチーム日野小をめざして…

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努め、授業の「型」から「質」の向上を図るため、どの教室のどの授業とも、日常的な授業公開に努め、授業改善を積極的に進めよう！
- 授業改善に力点を置いた校内OJTや校外でのOJT研修を促進し、資質向上の成果をチーム全体に広めよう！

日野小学校 学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく生きようとする子どもの育成

かしこく

- めあてを持って学習する子
- 書くことが好きな子
- よく考えて説明できる子

明るく

- いじめを許さない子
- 人権を大切にする子

たくましく

- 運動が好きな子
- 最後まで 力いっぱいチャレンジする子

支えあおう！ 学びあおう！ 高めあおう！

「チーム日野小」が大切にしたい「10の ACTION」

- ① 子どもの「安全・安心」を一丁目一番地の重点目標とし、「楽しい学校づくり」に努めていこう！
- ② 生徒指導・教育相談に関する基本的な考え方を大切にし、情報交換を充に迅速に取り組もう！
- ③ 子ども・保護者・地域から「信頼され、期待される学校を創る！」ということ宣言していこう！
- ④ 「笑顔と明るいあいさつ」は、子どもや学校の“健全度”を表す“ものさし”であると心得よう！
- ⑤ 「環境が人をつくる。その環境は人がつくる。」積極的に人的・物的環境を改善していこう！
- ⑥ 「基本的な流れ」を踏まえた指導により、子どもの主体的な成長を図るため、積極的に環境を整えて、具体的な手立てを講じて、意識化を図り、行動化を促すプロセスを大切にしていこう！
- ⑦ 「学校マネジメント」の考え方に基じた取組を大切にして、「チーム日野小」としてSTAFFのみならず、チームとしての意識の改革を図っていこう！
- ⑧ うまくいかないのは方法が悪いからと心得て、常に「創造・進取」の精神で、「クリエイティブ」に“アクティブ”に、工夫・改善し、「方策」を模索していこう！
- ⑨ 「課題解決のための手立て」を明確にし、「チーム全体で取り組む教育実践」は、やがては「成果を実感することができる」と肝に銘じて、粘り強く取り組んでいこう！
- ⑩ 「成果を実感することのできる教育実践」は、やがては子どもやSTAFFの「意識を変革」して、「学校を活性化することができる」との信念をもって「攻めの姿勢」を貫いていこう！

地域や保護者の状況

- 豊かな自然に囲まれた地域でありながら、商業施設や病院、公的施設等が近隣にあり、比較的生活しやすい条件が整っている。
- 歴史や伝統・地域文化を大切に、まとまりがよい地域であるが、近年になり、他地域からの転居が増え、住民の価値観が多様化し、旧地域からの児童数は減少傾向にある。
- 保護者は全般的に学校運営に対し理解があり、協力的であるが、転入世帯の増加と相まって、地域から孤立する家庭が増えつつあり、子育て不安を抱く保護者や精神的に不安定な保護者が増加傾向にある。

子どもの状況

- 素直で明るく、礼儀正しい子どもが多い。
- 様々な行事や児童会活動等に関して、熱心に取り組む子どもが多い。
- 自立の面で他者に依存しがちで、影響されやすい傾向が見られる。
- 与えられた課題に対しては、まじめに取り組めるが、自主的・自律的に学習に取り組もうとする力が、やや弱い傾向にある。
- 様々な要因から、不登校傾向を示す子どもが増加傾向にある。
- 福祉的な視点を大切に、アセスメントとプランニングをしていくべきケースが増加傾向にある。

「チーム日野小」を支えてくださる関係機関や組織・ボランティア

日野小PTA、学校評議員、日溪同窓会、日野安全なまちづくり協議会、鎌掛子ども見守り隊、スクールガード、民生・児童委員、スクールソーシャルワーカー、学校心理士、子育て教育相談センター、少年センター、学校教育課、子ども支援課、地域コーディネーター、各種の学校支援ボランティア、企業、地域住民 他

学び部会

- 「算数の勉強は好きです」という回答率が70%以上維持できるよう取り組む。
- 「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を実践するための学習環境を整え、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と意識できる子どもの割合を80%以上とする。
- 読書に取り組む姿勢の「2極化」の解消を図るための方策を講じ、図書室の図書年間貸し出し総数40,000冊、個人貸出数80冊をめざす。
- 児童保育所や家庭との連携に努め、家庭学習の時間の目安《学年×10分+10分》の明示や宿題の出し方の創意工夫により、学力調査の質問において「家庭学習の時間が30分未満」という子どもの割合を10%以下にするようする。
- 教員の人材育成の面から、教師の学びの場としてのOJT研修を推進し、全般的に学習規律（話を聞く姿勢、学習用具の使い方、ノート指導等）を徹底させる。

くらし部会

- 「元気っ子」カードの取組を年3回実施するとともに、家庭や地域に向けた「早寝・早起き・朝ごはん運動」の啓発により、毎日、決まった時刻に早寝・早起きをする子どもの割合を前年度より5%以上増やす。
- 一人一人の思いや存在を大切にする実践を重視し「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対する回答数値の改善を図る。
- 家庭でのテレビや動画サイト等の視聴時間、ゲームやスマートフォンの使用時間が2時間以上の子どもの割合を50%以下にする。
- 人権標語つくりや校内放送など、月1回全校的に人権を考える「日野人権の日」を設定し、毎月1回の「なかよしアンケート」の実施と併せ、個別の人権課題の周知も含めて人権意識を高める。

なかま部会

- 「支えあおう！ 学びあおう！ 高めあおう！」をスローガンに、学級（学習）集団づくりの推進に努める。
- 楽しく活発で、お互いを認め合う集団づくりを進め、I checkによる子ども達の示す数値の改善に努める。
- 委員会活動の活性化、クラブ活動の「立ち上げ」など、児童会活動・委員会活動・クラブ活動をはじめとした児童の自主的かつ自覚的な活動の活性化を図る。
- 「人の役に立つ」、「達成感」、「将来の夢を持つ」、「先生に認められる」という問いに対する回答数値の改善を図る。
- 仲間との身体を動かす遊び、体育の授業、「健やかタイム」の内容を工夫し、特に、「走る力」と「投げる力」に関する指導の重点化を図る。
- 体力テストD・E段階の子どもの割合を20%以下へと減らす。
- 「ほのぼの交流」など身近にあるボランティア活動を積極的に推進する。

基盤としての特別支援教育

- 通級指導教室での支援と連携し、対象となる子ども達に対して、よりきめ細かな個別の配慮を進め、個別指導計画の作成と改訂により、通常学級に在籍する配慮を要する子どもへの適切な支援に努める。
- 適切な入級指導のための研修、ケース会議の開催、個別の教育支援計画の作成を通して、特別支援学級に在籍の子どもに対し「学ぶ力を身につける特別支援教育」のあり方について研究していく。
- 保護者対象の教育相談日の設定や関係機関との連携を図り、安心を支える相談活動を充実させる。 □ 保・幼・小・中の連携・接続を図り、先を見すえた切れ目のない就学支援に取り組む。
- 障害者理解教育の推進（子ども同士）と教職員の専門的知識や子ども理解を深める研修を充実させる。

